

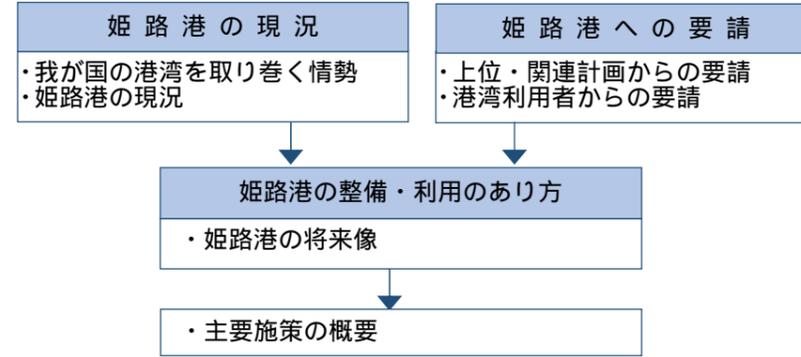
# 姫路港の整備・利用のあり方 概要版

## 姫路港の概要

姫路港は瀬戸内海の東部、播磨地域の中央部の姫路市臨海部に位置する国際拠点港湾である。その港湾区域は東西約 18 km、面積約 7,700ha であり、隣接する重要港湾東播磨港とともに、鉄鋼や化学産業等の製造業、電気・ガス等のエネルギー産業を支える工業港として、我が国経済の発展に重要な役割を果たしている。



## 検討フロー



## 姫路港の現況

### 我が国の港湾を取り巻く情勢

- 物流・産業**
- ・バルク貨物船の大型化
  - ・世界的にコンテナ貨物の取扱いが増大
  - ・上海などアジアの港湾のコンテナ取扱量増加により、我が国の港湾の地位が低下
  - ・国際分業の一層の進展
  - ・臨海部における大規模な設備投資
- 交流・生活**
- ・訪日外国人旅行者の増加
  - ・レクリエーションの場としての港の活用
  - ・臨海部を舞台とした産業観光の進展
- 自然・環境**
- ・COP21におけるパリ協定の採択（温室効果ガスの排出量削減）
  - ・瀬戸内海環境保全特別措置法の改正（「きれいな」だけでなく「豊かな海」へ）
- 安全・安心**
- ・国土強靱化に向けた防災・減災対策が急務
  - ・施設の老朽化対策が急務
  - ・南海トラフ巨大地震の発生が逼迫

### 姫路港の現況

- 物流・産業**
- ・工業港としての特色が強く、我が国有数の製造業が集積
  - ・コンテナ航路の維持が困難
  - ・臨海部道路の慢性的な渋滞
  - ・広畑地区の一部に、新規企業が参入できる低未利用地が存在
  - ・物流・産業機能用地が住宅地と離れて立地
  - ・埋立計画があるなど、新たな開発用地の造成が可能
- 交流・生活**
- ・内陸部には姫路城や書写山円教寺など魅力的な観光資源が存在
  - ・自然とのふれあいを中心とした施設や海岸の他、マリンスポーツ基地が整備済
  - ・多くの工場で一般者を対象とした見学が可能
  - ・家島、小豆島への玄関口・交流拠点として利用
  - ・C I Q体制など外航クルーズ船の受入れ体制が脆弱
  - ・姫路港と市街地間を結ぶ公共交通は姫路駅方面のバスのみ
- 安全・安心**
- ・須加地区に耐震強化岸壁（水深・10m、延長170m）が整備済
  - ・南海トラフ巨大地震による津波被害は大阪湾諸港に比べ小さいと想定
  - ・家島（小豆島）への緊急物資等の輸送拠点
  - ・高度経済成長期に集中的に整備した施設の老朽化が進行
- 自然・環境**
- ・金属くずなどの循環資源の取扱いが盛んであり背後にはリサイクル企業が立地
  - ・景勝・自然海浜が残されている、白浜・大塩・的形地区等は海域環境が良好
  - ・コンテナ航路の維持が困難（再掲）

## 姫路港への要請

### 上位・関連計画からの要請

- ・近畿圏広域地方計画
- ・21世紀兵庫長期ビジョン 2040年への協働戦略
- ・兵庫県地域創生戦略
- ・ひょうご経済・雇用活性化プラン
- ・第4次兵庫県環境基本計画
- ・姫路市総合計画 など

### 港湾利用者からの要請

#### 港湾運送事業者からの要請

- バルク貨物への対応について**
- ・バルク貨物の中継基地としての機能を強化
  - ・他港でバルク貨物の取扱い規制が進めば、姫路港における取扱要請は増加
  - ・今後も、木材チップ、金属鉱などの輸入で大型貨物船を利用
- コンテナ貨物への対応について**
- ・現状ではコスト面で陸送にかなわないが、中長期的にはコンテナ取扱の検討が必要
  - ・今後、これまでバルク貨物として運ばれていた貨物のコンテナ化が進展

#### 広畑地区の利用について

- ・現状ではコスト面で陸送にかなわないが、中長期的にはコンテナ取扱の検討が必要
  - ・今後、これまでバルク貨物として運ばれていた貨物のコンテナ化が進展
- 広畑地区の利用について**
- ・広畑地区の背後には三菱電機等の工場が立地しており、粉塵の発生するバルク貨物を扱うには環境対策が必要

#### クルーズについて

- ・C I Q体制の強化が必要

#### 臨海部主要企業からの要請

- 道路網について**
- ・国道2号バイパス、国道250号の慢性的渋滞を解消するため、播磨臨海地域道路を整備
  - ・網干地区と広畑地区の連携強化のため、臨港道路網干沖線を整備
- 航路泊地の維持浚渫・浚渫土砂の処分について**
- ・浚渫土砂の処分先確保（浚渫土砂を用いた干潟、浅場等の造成）
- ドライバー不足について**
- ・ドライバー不足が大きな課題（特に長距離ドライバーが不足）
- モーダルシフトについて**
- ・貨物の小口化、多頻度化により海送へのシフトが困難
  - ・内航コンテナ船が毎日就航すれば利用可能
- 港湾施設（岸壁・泊地等）について**
- ・広畑地区への企業誘致促進のため、早期に公共岸壁（-14m：第2バース）を整備

## 姫路港の将来像（目標年次：平成40年代、概ね15～20年後）

**理念** 播磨とともに港がひかる

**将来像1** 地域の活力源となる強い産業づくりを支える港

- 施策**
- 背後企業等の需要や物流形態の変化に対応したバルク取扱機能の強化（鋼材、鉱産品、木材チップ等）
  - 神戸港間の内航フィーダー輸送の促進
  - 外航コンテナ定期航路について、背後圏の荷主の需要等に応じた検討（超長期）
  - 背後圏物流の円滑化に資する臨海部道路ネットワークの充実
  - 工場・物流施設等の立地促進を図るため、臨海部に存在する低未利用地の活用および開発空間の確保
  - 新エネルギー拠点の形成にも資する開発空間の確保

**将来像2** 交流人口の拡大を支える港

- 施策**
- 工場夜景などの地域資源の魅力向上による交流空間の創出
  - 既存の親水空間の有効活用と新たなにぎわい空間の創出
  - 港と内陸市街地のアクセス利便性の向上（南北都市軸の強化）
  - 定期旅客船の利便性向上と快適な利用空間の創出
  - 姫路らしさや姫路港の特色を活かした海のエンタランス整備（瀬戸内海クルーズなどの内航クルーズ客船や外航クルーズ客船の一層の誘致）
  - 外航クルーズ船についてはセカンドポート、サードポートとして対応を基本とし、クルーズ船の需要に応じファーストポートでの対応を検討

**将来像3** 豊かな自然環境を次世代につなぐ港

- 施策**
- 循環資源取扱い拠点の形成
  - 浚渫土砂を利用して積極的に干潟、藻場等の自然環境を創出
  - 自然海浜・景勝の保全（再掲）
  - 神戸港間の内航フィーダー輸送の促進（CO2排出量削減）
  - 住工混在の解消など内陸の環境改善に資する土地の確保

**将来像4** 安全くらし、安定した企業活動を守る港

- 施策**
- 甚大な被害が想定される大阪湾のバックアップ機能の確保
  - 災害時の内陸部・家島諸島等への人・生活物資輸送の確保
  - 戦略的的老朽化対策の実施（総合的観点からの優先順位設定）

概要版として分かりやすくするために、本編（P42の戦略）を一部修正して記載しています。

# 姫路港の整備・利用のあり方 概要版

## 主要施策の概要

### ～ 播磨とともに港がひかる～

